

# 公開実用平成 2-116274

②日本国特許庁 (JP)

①実用新案出願公開

②公開実用新案公報 (U) 平2-116274

③Int.Cl.

B 26 B 13/00

識別記号

庁内整理番号

C 7366-3C

④公開 平成2年(1990)9月18日

審査請求 有 請求項の数 3 (全 頁)

⑤考案の名称 理容用の鏡

⑥実 願 平1-26348

⑦出 願 平1(1989)3月7日

⑧考 案 者 栗 内 功 徳島県麻植郡鴨島町飯尾550番地の8

⑨出 願 人 栗 内 功 徳島県麻植郡鴨島町飯尾550番地の8

⑩代 理 人 弁理士 豊 桜 康弘

明細書

### 1. 考案の名称

理容用の鉄

### 2. 実用新案登録請求の範囲

(1) 柄2の後端に、指を通す指孔環1が設けられ、かつ、この指孔環1は柄2とは別の部材であって、柄2の後端に連結されている鉄において、下記の構成を有することを特徴とする理容用の鉄。

(a) 指孔環1は、外周から半径方向に延長される雄ネジ3を有する。

(b) 柄2は、後端から軸方向に延長して、指孔環1の雄ネジ3がねじ込まれるネジ孔4が設けられている。

(c) 雄ネジ3は、柄2のネジ孔4にねじ込まれて指孔環1を柄2に連結している。

(d) 指孔環1を交換して、使用者に合う大きさの指孔と、柄2の長さとに調整できるように構成されている。

(2) 柄2の後端に、指を通す指孔環1が設けられ、かつ、この指孔環1は柄2とは別の部材で

## 公開実用平成 2-116274



あって、柄2の後端に連結されている鉄において、下記の構成を有することを特徴とする理容用の鉄。

(a) 指孔環1は、半径方向に貫通してネジ孔4が開口されている。

(b) ネジ孔4には雄ネジ3が挿通されている。

(c) 柄2は、後端から軸方向に延長して、指孔環1を貫通する雄ネジ3がねじ込まれるネジ孔4が設けられている。

(d) 雄ネジ3は、柄2のネジ孔4にねじ込まれて指孔環1を柄2に連結している。

(e) 指孔環1を交換して、使用者に合う大きさの指孔と、柄2の長さを調整できるように構成されている。

(3) 柄2の後端に、指を通す指孔環1が設けられ、かつ、この指孔環1は柄2とは別の部材であって、柄2の後端に連結されている鉄において、下記の構成を有することを特徴とする理容用の鉄。

(a) 指孔環1は、外周から半径方向に延長されて柄部分6が突出して設けられている。

(b) 指孔環1の柄部分6は、後端から軸方向



に延長して、ネジ孔4が設けられている。

(c) 柄2の後端には、軸方向に突出して雄ネジ3が設けられている。

(d) 雄ネジ3が指孔環1のネジ孔4にねじ込まれて指孔環1を柄2に連結している。

(e) 指孔環1を交換して、使用者に合う大きさの指孔と、柄2の長さとに調整できるように構成されている。

### 3. 考案の詳細な説明

#### 【産業上の利用分野】

この考案は、人間あるいは動物に使用される理容用の鉄に関し、特に、使用者に合わせて、指孔の大きさと柄の長さとを調整できる鉄に関する。

#### 【従来の技術並びにその課題】

指孔の大きさが調整できる鉄はすでに開発されている。例えば、指孔を交換できる鉄は、実開昭54-68293号公報に開示されている。この鉄は、指孔を設けた指環を脱着自在に柄の後端に連結している。指環は、細長い円形として、その外周に沿って溝を設けている。一方、柄の後端は、

## 公開実用平成2-116274



指環を挟む状態で、溝に嵌入される2分岐された脚を設けている。この鉄は、脚に指環を脱着して交換できる構造としている。

しかしながら、この構造の鉄は、指孔の形状に制約を受ける欠点がある。指環を柄の後端に挟着状態で連結するからである。すなわち、この構造の鉄は、指孔の幅を調整できるが、厚さを調整することができない。太い指は、幅と厚さとが大きく、一方が調整されても、太い指を楽に挿入できない。

また、指環の一部を、長さ調整できるバンドとした鉄も開発されている（実開昭58-11340号公報）。この鉄は、指孔を構成するバンドの長さを調整して、指孔の大きさを調整している。しかしながら、この構造の鉄も、前述の鉄と同様に、指孔の形状に制約を受ける欠点がある。すなわち、指をスムーズに挿入できる形状を保持して、指孔の大きさを調整できない。指孔を細くすると、厚さが狭くなり、幅を小さく出来ない。

さらにまた、指環の一部を可接性のバンドとし

て、指孔の大きさを調整できる鉄も開発されている（実開昭62-18070号公報）。この鉄は、柄に沿ってバンドの端を移動させて、指孔を調整している。この構造の鉄も、前述の鉄と同様に、指孔全体の大きさを調整することはできるが、指孔を最適の形状に保持して、大きさを調整することが出来ない。

家庭で使用される鉄は、単に指孔の大きさを調整するだけで便利に利用できるかも知れない。しかしながら、理容用の鉄は、極めて長時間に渡って連続使用されるもので、しかも、専門家によって極めて正確な状態で使用されるので、単に指孔の大きさを調整するだけでは、決して便利に利用できない。この用途の鉄は、手に良く馴染んで、手と一体感に優れたものでなければならない。

専門家がシビアな状態で使用する理容用の鉄は、指孔の大きさに加えて、柄の長さも最適値に調整する必要がある。

柄の長さを調整する鉄はでに開発されている。例えば、実開昭60-195678号公報には、

## 公開実用平成 2-116274

指孔環を柄の後端でスライドさせて柄の長さを調整できる鉄が示されている。この鉄は、指孔環の外周を接線方向に貫通してスライド孔を設けている。柄の後端は細く形成されて、ここをスライド孔に挿通している。指孔環を柄の後端に沿って移動させて、柄の実質的な長さを調整している。

さらに、別の公報に示されている鉄は、指孔環の外周に板材を固定し、この板材に複数の止孔を設け、止孔を貫通する止ネジで、指孔環を柄の後端に連結している。この構造の鉄は、止孔を変更して、指孔環の固定位置を調整している。

これ等の鉄は、簡単に柄の長さを調整できるが、指孔の大きさを調整することができず、各使用者に最適の状態には調整できない。

## 【この考案の目的】

この考案はこれ等従来の鉄の欠点を解決することを目的に開発されたもので、この考案の重要な目的は、使用者の手に合わせて、最適な指孔と、柄の長さに調整できる理容用の鉄を提供するにある。



また、この考案の他の重要な目的は、指孔の大きさと位置とが調整できるにもかかわらず、指孔の形状を従来のものと同様にでき、しかも、簡単かつ容易に多量生産できる理容用の鉄を提供するにある。

【従来の課題を解決する為の手段】

この考案の理容用の鉄は、前述の目的を達成する為に、獨得の形状で指孔環1を柄2の後端に連結している。柄2の連結部分は、大別して、下記の、(1)と(2)と(3)との形状が採用される。

(1) 鉄は、下記の構成で、指孔環1が柄2の後端に連結されている。

(a) 指孔環1は、外周から半径方向に延長される雄ネジ3を有する。

(b) 柄2は、後端から軸方向に延長して、指孔環1の雄ネジ3がねじ込まれるネジ孔4が設けられている。

(c) 雄ネジ3は、柄2のネジ孔4にねじ込まれている。

## 公開実用平成 2-116274



(d) 指孔環1を交換して、指孔の大きさを調整する。雄ネジ3のねじ込み量を調整し、または、柄部分6が異なる指孔環に変更して、柄2の長さを調整できるように構成されている。

(2) 鉄は、下記の構造で、柄2の後端に、指を通す指孔環1が連結されている。

(a) 指孔環1は、半径方向に貫通してネジ孔4が開口されている。

(b) ネジ孔4には雄ネジ3が挿通されている。

(c) 柄2は、後端から軸方向に延長して、指孔環1を貫通する雄ネジ3がねじ込まれるネジ孔4が設けられている。

(d) 雄ネジ3は、柄2のネジ孔4にねじ込まれている。

(e) 指孔環1を交換して、指孔の大きさと、柄2の長さを調整できるように構成されている。

(3) 鉄は、下記の構成で、指孔環1が柄2の後端に連結されている。

(a) 指孔環1は、外周から半径方向に延長される柄部分6を有する。



(b) 柄部分6は、後端から軸方向に延長して、柄2の雄ネジ3がねじ込まれるネジ孔4が設けられている。

(c) 柄2の後端に、軸方向に突出して雄ネジ3設けられている。

(d) 雄ネジ3が、指孔環1のネジ孔4にねじ込まれて、指孔環1を柄2に連結している。

(e) 指孔環1を交換して、指孔の大きさを調整する。雄ネジ3のねじ込み量を調整し、または、柄部分6が異なる指孔環に変更して、柄2の長さを調整できるように構成されている。

#### 【作用効果】

第1図および第2図に示すこの考案の鉄は、次の状態で指孔環1を変更する。

- ① 使用者の指の太さに合わせて、指孔環1を選択する。
- ② 指孔環1の雄ネジ3を柄2の後端にねじ込んで、指孔環1を柄2の後端に連結する。このとき、雄ネジ3をネジ孔4にねじ込む量を調整して柄の長さを調整し、あるいは、柄部分6の長さが異なる

## 公開実用平成2-116274

発明  
権利  
登録  
出願

る指孔環で柄の長さを調整する。

指孔環1の大きさが、使用者の指に合わない場合、雄ネジ3を柄2の後端から抜いて、大きさが異なる指孔環1に変更する。また、柄2の長さが使用者に最適でない場合、雄ネジのねじ込み量を調整し、あるいは、柄部分6の長さが異なる指孔環に変更する。

指孔環1は、雄ネジ3を柄2の後端にねじ込んで連結することができるが、指孔環1をより確実に柄2の後端に連結するには、雄ネジ3を、接着剤を介して柄2のネジ孔4に接着する。この考案の鉄は、指孔の大きさと柄2の長さとを使用者に合わせて調整するものであるが、一旦調整した後は、指孔環1を変更する必要がない。それは、理容用の鉄は使用者が特定されて、決まった人が使用するからである。

このため、指孔環1の雄ネジ3を柄2の後端に接着して確実に固定することができる。

第3図に示す鉄は、次の状態で指孔環1を柄2の後端に連結する。



① 雄ネジ3を指孔環1の止め孔に貫通させて、柄2の後端にねじ込んで連結する。指孔環1を柄2の後端に連結する前に、指孔環1を選択して使用者の指の大きさに合わせ、また、柄2の後端の長さを使用者に最適の値とするのは、第1図の鉄と同じである。

第1図および第2図と第3図とに示す状態で、柄2の後端に指孔環1が連結された理容用の鉄は、全体の形状を、指孔環1が柄2と一体的に製造された従来の鉄と同じにできる。このため、この考案の鉄は、指孔の大きさと柄2の長さとを、使用者に合わせて最適の状態に調整できるにもかかわらず、使用状態にあっては、従来の鉄と全く同様に便利に使用できる。

また、この考案の鉄は、指孔の形状に制約を受けることなく、指孔の大きさを調整できる。それは、指孔環1を交換して指孔の大きさを調整し、しかも、指孔環1を、雄ネジ3で柄2の後端に連結するからである。

さらにまた、この考案の鉄は、使用者に最適の

## 公開実用平成 2-116274

特別注文の鉄を簡単かつ安価に多量生産できる特長がある。指孔環1を鉄と別部材として製造し、指孔環1の組合せを代えて使用者に合わせることができるからである。

### 【好ましい実施例】

以下、この考案の実施例を図面に基づいて説明する。

但し、以下に示す実施例は、この考案の技術思想を具体化する為の鉄を例示するものであって、この考案の鉄は、構成部品の材質、形状、構造、配置を下記の構造に特定するものでない。この考案の鉄は、実用新案登録請求の範囲に記載の範囲に於て、種々の変更が加えられる。

更に、この明細書は、実用新案登録請求の範囲が理解し易いように、実施例に示される部材に対応する番号を、「実用新案登録請求の範囲の欄」、「従来の課題を解決する為の手段の欄」および「作用効果の欄」に示される部材に付記している。ただ、実用新案登録請求の範囲に示される部材を、実施例の部材に特定するものでは決してない。



第1図および第2図に示す鉄は、指孔環1が柄2とは別の部材として製作されている。指孔環1を交換して指孔の大きさを変えるからである。指孔環1は、ここに指の先端部を挿通できるように、全体の形状が円形に近い環状に作られている。

指孔環1は、これを柄2に連結できるように、外周から半径方向に延長される雄ネジ3を有する。雄ネジ3は、調整リング5を貫通して柄2の後端にねじ込まれるように、好ましくは、全長が、10～25mmに調整されている。雄ネジ3は、充分な強度で指孔環1を柄2の後端に連結でき、しかも、柄2を太くすることなく柄2のネジ孔4にねじ込むことができるよう、好ましくは、山径が2～3.5mmのネジが使用される。

一方、柄2の後端には、後端から軸方向に延長して、指孔環1の雄ネジ3をねじ込むネジ孔4が設けられている。雌ネジは、長い雄ネジ3をねじ込むことができる長さに穿設されている。

雄ネジ3を柄2にねじ込む深さを変えて、柄後端の長さを調整できる。雄ネジ3を完全に柄2の

## 公開実用平成2-116274

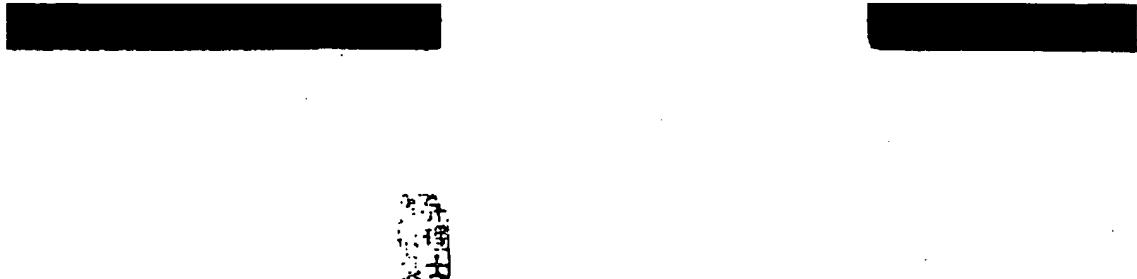


ネジ孔4にねじ込まない場合、柄2と指孔環1との間に隙間ができる。第1図および第2図と第3図とに示す鉄は、この間に調整リング5を入れて、奇麗に仕上げている。

従って、調整リング5は、指孔環1と柄2の後端との間隔に調整されている。言い替えると、調整リング5の長さで、柄2の後端の長さを調節することができる。すなわち、長い調整リング5を使用して雄ネジ3をネジ孔4に浅くねじ込むと、柄2の後端を長くできる。短い調整リング5を使用すると、柄2の後端を短くして指孔環1を連結できる。

調整リング5は、指孔環1の雄ネジ3を挿通できる筒状に作られている。調整リング5の外径は、柄2の後端の外径に等しく調整されている。この調整リング5は、柄2に連結した状態で、スッキリと奇麗に連結できる特長がある。調整リング5の内径は、ここに雄ネジ3を挿通できるように、雄ネジ3の山径よりも大きく作られている。

この構造の理容用の鉄は、指孔環1と調整リン



グ5とを交換して、指孔の大きさと、柄2の長さを調整できる。

第3図に示す理容用の鉄は、指孔環1と雄ネジ3とが別部材として作られている。従って、指孔環1は、半径方向に貫通してネジ孔4が開口されている。このネジ孔4に雄ネジ3を挿通して、指孔環1を柄2の後端に連結している。

指孔環1の内径よりも長い雄ネジ3を使用する場合、指孔環1の後方に貫通孔を設ける。

さらにまた、第4図に示す鉄は、第1図の鉄とは反対に、指孔環1にネジ孔4を設け、柄2の後端に雄ネジ3を固定している。指孔環1は、ネジ孔4を設けるために、外周に突出して柄部分6を設けている。この柄部分6にネジ孔4を穿設している。

この構造の鉄は、第1図の鉄と同様に、雄ネジをネジ孔にねじ込んで指孔環を柄の後端に連結できる。

第1図、第3図、および、第4図に記すように、調整リング5を雄ネジ3に挿入した鉄は、柄の長

## 公開実用平成 2-116274

提出

さを調整して、雄ネジ3が外部に表出せず奇麗に仕上げることができる特長がある。

第1図に示す鉄は、両側の指孔環1を柄2とは別に分離している。この構造の鉄は、両側の指孔環1の大きさと柄2の長さとを調整できる。ただ、この考案は、鉄をこの形状に特定するものでない。例えば、片側の柄に連結する指孔環のみ柄と別部材とし、他の片側の指孔環は柄と一体的に成形することも可能である。

## 4. 図面の簡単な説明

第1図および第2図はこの考案の一実施例を示す鉄の側面図および要部拡大断面図、第3図は他の実施例を示す鉄の要部拡大断面図、第4図はさらに他の実施例を示す鉄の要部拡大断面図である。

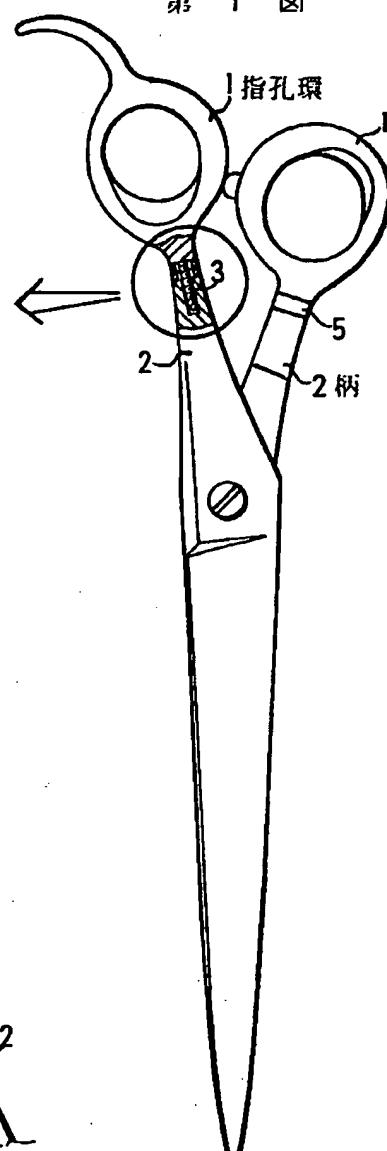
1 ……指孔環、 2 ……柄、  
 3 ……雄ネジ、 4 ……ネジ孔、  
 5 ……調整リング、 6 ……柄部分。

出願人 粟 内 功

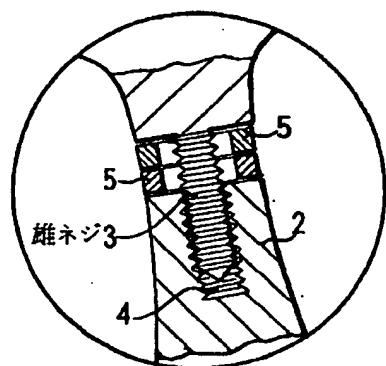
代理人 弁理士 豊橋康弘

豊橋康弘

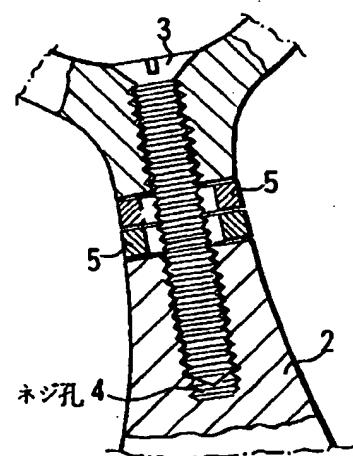
第 1 図



第 2 図



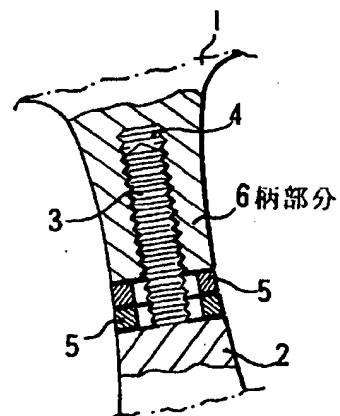
第 3 図



出願人 粟内功 実開21  
 代理人 弁理士 豊橋康弘 弘豊理士  
 豊橋康弘

## 公開実用平成 2-116274

第 4 図



945

出願人 粟 内 功

代理人 弁理士 畠 棚 康 弘

実開2 116

This Page is inserted by IFW Indexing and Scanning  
Operations and is not part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

**BLACK BORDERS**

**IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**

**FADED TEXT OR DRAWING**

**BLURED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**

**SKEWED/SLANTED IMAGES**

**COLORED OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**

**GRAY SCALE DOCUMENTS**

**LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**

**REPERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**

**OTHER: \_\_\_\_\_**

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**  
**As rescanning documents *will not* correct images**  
**problems checked, please do not report the**  
**problems to the IFW Image Problem Mailbox**